

のに対して、**ワークネット**は再就労までにもう少し準備・訓練の必要な方が対象になります。あいさつ・身だしなみ・言葉遣いなどの基礎訓練から始めますから……。

「働きたい」という意欲のある精神障害をお持ちの方に就労を目指した支援を提供するのが、**ワークネット**です。

なお、**ワークネット**での就労というのは、「障害を開示しての、障害者雇用枠での就労」の支援がメインです。つまり、精神障害者手帳を所持している人が、その手帳を企業側に提示し、障害者雇用促進法の制度に基づいて職場からの配慮を受けながら就労するケースが大半になります。



「きらり」には、人間関係につまずき人と関わることで体がつらいと感じている方が多く利用されています。

Q ワークネットときらりは、共に精神疾患を持つ方への就労支援を行っているわけですね。では、2つの施設の役割の違いは？

金森 まず、制度上の基本的な違いとして、**きらり**は医療サービスとしての精神科デイケアであるのに対して、**ワークネット**は医療サービスではなく、福祉サービスとしての就労移行支援事業所です。就労移行支援事業所は制度上、医療や福祉、リハビリに関するスタッフを置く必要はないのですが、当**ワークネット**は医療法人を母体としているので精神保健福祉士などの医療スタッフを置いており、このことも専門性を担保するひとつの特色となっています。

Q なるほど。一方、きらりのウェブサイトを見ると、「社会復帰のためのリハビリ」の施設だという説明があります。そこから、きらりは3施設のうちの「訓練的な色がいちばん薄い施設」という印象を受けるのですが、どうでしょう？

森永 その理解で合っていると思います。精神疾患をお持ちの方は、生活のリズムが大きく崩れてしまったり、人とのコミュニケーションが極度に苦手になってしまったりしがちです。「誰かと一緒に決まった作業をする」とか、「毎日決まった時間に何かをする」といった体験から離れて久しい、という方も多いのです……。そのような「生活していくうえで最もベーシックな能力」を、リハビリ・プログラムや他の利用者との交流の中で高めてもらうことが、**きらり**の大きな役割です。

Q それに対して、ワークネットのプログラムはもっと「職業訓練」という色合いが濃いわけですね？

金森 そうですね。**ワークネット**では職場での体験実習とか、実地のレベルで訓練していきますから。そこが

らりとのいちばんの違いです。

Q では、「利用者が3施設のうちどこを選ぶべきか？」の大きな基準をまとめるとしたら？

森永 ケースバイケースではありますが、大まかに言うと次のようになります。

◎精神疾患による休職中で、復職先企業による受け入れが決まっている場合は、「**BU**」に。

◎精神障害があり、障害を開示したうえでの就職を目指している場合は、「**ワークネット**」に。

◎精神疾患を持っていて、「いずれは就労したいけれど、できるかどうかわからない」という葛藤がある方、基礎的な生活能力に不安がある方、またはこれまでに就労経験がない方は、「**きらり**」に。

就労・復職は「ゴール」ではない

Q 3つの施設はそれぞれ、精神疾患を持つ方の就労・復職に大きな実績を上げてきたと思います。たとえばBU Cの場合、2006年からの利用終了者732名中、507名が復職を果たしたというデータがあります。

松田 精神科デイケアの「リワークプログラム」の平均復職率が7割程度と言われているように、うちも約7割ですから、平均的だと思います。ただ、利用者がよく言われる言葉に、「私にとって、復職はゴールではなくスタートです」というものがあります。これはほんとうにそのとおりで、復職ができればいいというわけではない。働きたいことができる、再発しないことが重要なわけです。そのためには再発防止はとても重要で、リワークプログラムの大きな役割だと思っています。

業界全体としても、復職率よりもその後の定着率のほ